

ハンミョウ

—みちおしえ（道教え）と ニラ虫—

山道を歩いていると

5月、暖かい晴れた日には近くの丘陵^{きゅうりょう}にでも散策^{さんさく}に出かけましょう。

山道を歩いていると、青や赤や緑に輝く^{かがや}2 cmほどの虫が、足元から飛び立ちました。

4～5 m ほど向こうに飛んでこちらを向いてじっとしています。近づいていくとまた4～5 m ほど向こうに飛んでこちらを向いています。

この虫は、こんなことを繰り返^くし、まるで道案内をしているようなので、“道教え”とも“道しるべ”とも呼ばれています。本当の名前は「ハンミョウ」と言います。よく見ると、たいへん大きなアゴをしています。この大きなアゴで、アリなどの生きた虫を捕^{つか}まえて食べています。

幼虫は地面の中

ハンミョウのメスは、春、交尾^{こうび}の後地面の中に卵を産みます。乾いていて軟らかな地面を探し、1 cmほどの深さに一つずつ産み付けていきます。

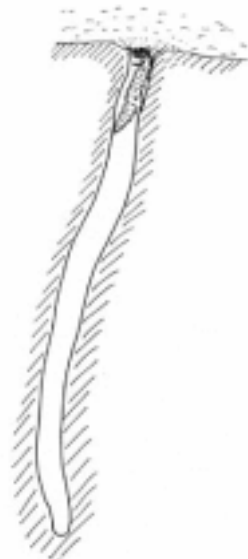
2週間ほどで孵^{かえ}った幼虫は、直径2～3 mm、深さ5 cmほどのたて穴を掘り、穴の中の入り口近くにひそみアリなどの昆虫の近づくのを待ちます。えものが穴に近づくと、急に飛び出して捕まえ、食べてしまいます。

ハンミョウは、成虫も幼虫も生きた虫を食べる肉食の昆虫なのです。穴の大きさや深さは、幼虫が大きくなるにつれて、大きく深くなっていきます。秋ごろには直径4 mm深さ10 cmほどに、冬を越して初夏^{しよか}になると直径6 mm深さ20 cmほどの穴を作るようになります。

ハンミョウの幼虫のひそむ穴にニラなどの植物の細い葉や茎を差し込むと、それに噛^かみ付いた幼虫を引っ張り出すことができます。それで、ハンミョウの幼虫のことを「ニラ虫」とも呼んでいました。



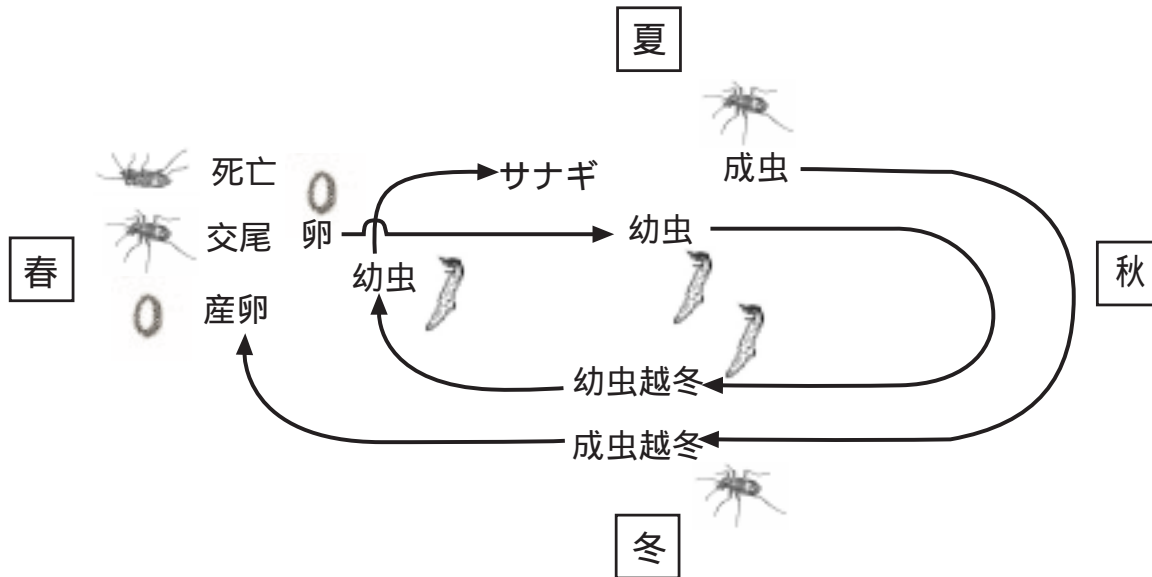
ハンミョウの成虫



ハンミョウの幼虫

2度目の冬越し

ハンミョウの幼虫は、夏の真っ最中に穴の中でサナギになり、秋の初めに成虫が羽化してきます。羽化した成虫は、せっせと虫を捕まえ栄養を蓄え、冬に備えます。冬には崖の穴に潜り込み、たくさんのハンミョウと一緒に越冬します。ハンミョウは幼虫で一度、成虫で一度、合せて二度冬越しをするのです。春がくると、交尾・産卵の季節です。



ハンミョウの一生

減ってしまったハンミョウ

ハンミョウは地面が露出している所、えさとなる虫がたくさんいる所でないと生活していきません。丘陵地へ行っても、道は舗装され小さな崖でさえコンクリートで固められ、ハンミョウの生きていける場所が狭められています。私が小さなころ（もう30年以上も前）は、たくさんいた虫ですが、最近ではいる場所がどんどん減ってきています。

今では、幼虫を釣り上げる遊びをしたことのある子供たちもいなくなったのではないのでしょうか。自然の中での遊びをつうじ、自然とふれあい自然を知ること、子供のころになされるべき大切な事だと思うのですが…。（根来 尚）



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成12年5月1日